



新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症に関連して、感染者・濃厚接触者、診察に関わった医療機関・医療従事者、その他対策に携わった方々に対する偏見や差別が発生しています。また、ワクチンの接種に関連した差別も発生しており、人権問題が生じています。こうした偏見や差別をなくすためには、病気に関する正しい知識・情報の普及が必要です。

どのような差別が起きているの？

「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」が令和2(2020)年3月から5月にかけて複数回にわたってまとめた「新型コロナウイルス感染症対策の状況分析・提言」では、医療・福祉従事者やその家族、物流など社会機能の維持に必要とされる職業に従事する人々に対して、必要なサービスの提供拒否、行事への参加拒否などの偏見や差別があることが分かりました。

令和2(2020)年9月には、「新型コロナウイルス感染症対策有識者会議新型コロナウイルス感染症対策分科会」のもとに、「偏見・差別とプライバシーに関するワーキンググループ」が設置されました。その結果においても、医療機関・介護施設や医療・介護従事者およびその家族等に対する差別的な言動、学校や学校関係者等に対する差別的な言動、勤務先に関連する偏見・差別等の行為、インターネットやSNS上での差別的な言動など、様々な場所で様々な様態による差別的な言動が発生していたことが明らかになりました。

また、新型コロナウイルスのワクチン接種をめぐることは、接種を受けていない人が、職場から出勤をやめると言われることや、施設の利用を断られるなどの偏見や差別問題が発生しています。

●感染者とその家族への差別や偏見

〇〇さん感染したんだって。
どうせ夜遊びしてて感染したんじゃないかな？

〇〇さん職場復帰したけど
後遺症あるみたい。まだうつるかも。
近寄らないようにしましょう。

わたし 私たちにできること

差別をしないことは新型コロナウイルス感染拡大防止対策のひとつでもあります。感染者等への差別や偏見が広がると検査を受けたり、感染を隠そうとする人が増える可能性があり、感染拡大を抑えにくくなります。

ある特定の症状というだけで感染を決めつけてしまうなど、思い込み、過剰な反応による差別や偏見を行うのではなく、正しい情報を確認し、科学的根拠の乏しい情報に対しては、過剰な反応は控え、冷静な行動を取ることが必要です。それが、新型コロナウイルス感染症から、自分を、家族を、みんなを守ることに繋がります。

